

時の動き

菅首相の政権投げ出しと自民総裁選

新社会党久喜支部 栗原 規昭

菅首相の政権投げ出し

自民党の新総裁選びが本格化する中、菅首相は突然立候補を取りやめた。

元々総裁選立候補に並々ならぬ意欲を見せていた菅首相であったが、一転出馬取りやめを表明した。

その理由が何とも苦しい言い訳がましいもので、「総裁選とコロナ対策を同時に行うには、大変なエネルギーがいる。だからコロナ対策に力を入れるために、総裁選出馬を取りやめる」というものだった。結果として、政権を投げ出したということになった。それに、取りやめて何かコロナ対策に新たな政策を打ち出す努力を始めたかと言え

ば、そんな様子は全くない。

総選挙のための首のすげ替え

本来であれば、衆院総選挙を行い、その後自民党の総裁選びという流れであるべきものである。しかしそれでは、支持率低迷著しい菅首相のもとでは、総選挙は戦えないというところから話は来ている。

昨年、安倍晋三の後を継ぎ、60%を超える支持率でスタートした菅政権であった。「令和おじさん」なる言葉で国民に親しみをもたれ、東北の田舎出身の苦勞人なる言説が振りまかれ、高支持率につながった。しかし、その

後の体たらくはここで、ぐだぐだと述べるまでもなく明らかである。

元々安倍政治の継承を謳って発足した、菅政権である。当然と言えば当然であるが、安倍政治の負の遺産について、手を付けることは一切無かった。モリ・カケ問題、桜を見る会などなど枚挙にいとまがない。

さらに追い打ちをかけたのが、コロナ対策への迷走ぶりである。あくまで経済を優先し、人命を二の次ぎにしてきたことが、誰の目にも明らかになったことである。

昨年のコロナ患者が減少しきらない段階でのGOTOキャンペーンのこ



東京五輪反対デモ

り押し、そして今年のオリ・パラの強行である。国民の7〜8割の反対（延期または中止）の声があったにも関わらず、開催を強行した。

菅にしてみれば、オリ・パラで日本選手が活躍し、金メダルラッシュになれば「愚かな」国民は拍手喝采をして、一挙に支持率が回復すると目論んでいた。

しかし、国民は愚かではなかった。

コロナ感染第5波の中、感染者が東京で5000人を超える状況での開催は、金メダルラッシュが続いても昔の支持率は回復しなかった。

結局は菅の下での総選挙は、自民党员の中に大きな不安をもたら

した。その結果としての菅降ろしである。

自民党、次の総裁は

いま、テレビ、新聞は自民党総裁選挙一色である。考えて見れば、数ある政党のなかのひとつでしかない、自民党の総裁選挙にこれだけ大騒ぎをするのは異状なことである。テレビのワイドショーも、それまでコロナ報道が中心であったものが、総裁選告示以降は、総裁選一色になった感がある。

確かに次の首相選に繋がる総裁選であるから国民の関心が高くなるのも一理ある。それにしても過剰報道であるのは否めない。なにしろ、国民が選挙に参加できるわけではなく、自民党员と自民党员合わせて、全国民の1%しか参加できないのであるから。

しかし、立候補者4人の顔ぶれを見ても、多少の考えの違いはあるにせよ、誰がなっても安倍・菅路線から大きく

転換することは期待できない。結局は安倍の影響からのがれることは無理であろう。

かつての自民党は、タカ派とハト派が共存し、疑似政権交代とも言うべき状況が存在した。しかし、安倍一強と言われるようになってからはそれもなく、言わばタカ派、新自由主義者一色である。

我々はどつすべきか

今述べたように、だれが総裁そして首相になっても安倍・菅路線、すなわち改憲・軍拡路線は変わらない。総選挙は間近にせまっている。これに臨むにあたっては、さしあたり大胆な野党共闘で自民党を過半数割れに追い込むことである。一歩でも二歩でも自公政権を後退させることである。

とにかく総選挙には必ず投票に行くことを周囲に呼びかけよう。

(くりはら のりあき) (9・23記)